22社、39人に栄誉

優良工事表彰式を挙行

上越市

上越市優良工事等表彰式が6日、デュオセレッソで開かれ、優良工事表彰に22社、優良建設技術者として39人が栄誉に輝いた。上越市発注分では2024度完成工事の中から優良工事表彰として30工事を施工した延べ33社が受賞し、優良建設技術者延べ35人を表彰。また上越市ガス水道局発注分では工事成績評定を行った9件の工事で、延べ9社が優良工事、9人が優良建設技術者を受賞した＝8面に一覧＝。

受賞者全員で記念撮影

中川幹太市長は栄誉をたたえた上で「今後とも既存インフラの維持管理や防災・減災の視点に立った効率的で効果的なインフラ整備に取り組む」とし「引き続き優良な工事の施工と担い手の育成に向けた技術の継承に努めていただくとともに、暮らしやすく希望にあふれるまちの実現に向け一層の力添えを」と要請。

優良工事受賞者を代表し、信越機工の柏川英樹社長は「これからも技術の研さんはもとより次世代を担う若い人材の育成にも力を注ぎ、持続可能な地域社会づくりに貢献していきたい。今回の受賞を新たな励みに社員一同さらに努力を重ね、安全・安心で質の高い施工を通じて上越市の発展と市民生活向上に貢献してまいりたい」と謝辞を述べた。また優良建設技術者を代表し島津工業の佐藤真氏は「公共工事に携わる私たちは託された工事を完璧に施工することによって市民の期待に応えていく責務を負っている。技術者が社会に果たすべき役割を再確認し、本日の感激を忘れることなくさらなる技術力向上を図っていく」と誓った。

水倉組らに通知書交付

ユースエール認定企業

新潟労働局

厚生労働省新潟労働局（福岡洋志局長）は3日、若者雇用促進法に基づく「ユースエール認定」企業に対して認定通知書を交付した。今回は水倉組（新潟市西蒲区）、北陸電々（新潟市中央区）、朝日舗道（村上市）、仁箇電建（新潟市東区）、北陸地域づくり協会（新潟市江南区）、和田ステンレス工業（燕市）の6社が対象となった。福岡局長は「若者雇用促進のリーディングカンパニーとして、今後も一層のご活躍をお願いしたい」と期待を寄せた。

局長と6社の代表が記念撮影

総合建設業を営み、環境保全や地域貢献に積極的に取り組む水倉組の水倉直人代表取締役は「当社は、時間外労働の上限規制に施行の3年前から取り組み、残業時間を減らすべく意識改革を図ってきた。昨年からは建設ディレクター・DX推進部を設け、現場における工事書類などに係る一部業務を移管することで現場の負担を軽減し、業務効率化や残業時間削減を実現した」と取り組みの成果を述べた。

情報通信工事・ネットワーク構築などを行う北陸電々の野上隆代表取締役社長は「この春、BtoB向きだったホームページを、求職者目線で業務内容が分かるよう全面的にリニューアルした。各個人に業務が偏らないようスケジュールを管理するなど、労働環境の整備にも積極的に取り組んでおり、有休・育休取得につながっている」と語った。

創業以来60年にわたり、地域密着で舗装業を営む朝日舗道の佐藤勇介常務取締役は「時代に適応するため、何が課題かについて社内全員で向き合い取り組んでいる状況。タイムカードの電子化や労務時間管理が、残業削減・有給取得・社員教育・安定雇用などさまざまな効果に直結することが分かった」と話した。

電気設備・計装・LAN工事を手掛ける仁箇電建の堀内大輔取締役は、安全装備補助制度や資格支援制度、部署活性後援金などの社内取組事例を紹介。「昨今はベテラン工事士の高齢化・引退が進み、技術や知識をどう維持・継承していくかが課題となっている。3Kを払拭できず、新たな人材が入りづらいということもある。これらを解決するため、当社ではさまざまな取り組みを行っている」とした。

防災活動支援やインフラ整備支援を行う北陸地域づくり協会の倉重毅専務理事は「事業を安定・継続して展開するためには、職員が誇りと意欲を持って従事できる環境の整備が不可欠。当社では働き方改革を推進し、一人一人がポテンシャルを最大限発揮できる環境を整えている」と述べた。

なお、9月16日時点での県内におけるユースエール認定企業数は98社に達しており、全国1位となっている。

「技術士と旅する新潟」

新たな観光事業に着手

キタック

総合建設コンサルタントのキタック（中山正子社長、新潟市中央区）は、新潟運輸旅行事業部と提携した新たな観光事業「技術士と旅する新潟～大地の鼓動と水の恵みを感じる旅」を立ち上げた。ベテラン技術士がツアーガイドを務め、地形地質専門家の見地から新潟の歴史や文化、治水や土木技術などに視点を当てたツアーを計画する。3日にプレス向けツアー体験会を開いた。

同社が長年の建設コンサルタント業務で培った専門的な技術力や知見を生かし、新潟ならではのジオツーリズムを展開する。ツアーには同社の技術士が帯同し、新潟特有の地形や地質などを専門的な解説を交えながら案内する。3日の体験会では新潟市西蒲区角田浜の「角田山灯台コース」を訪れた。

案内人となるのは同社副社長で日本技術士会北陸支部本部長・新潟県地質調査業協会会長・全国地質調査業協会連合会副会長などを務める平野吉彦氏。角田山灯台コースでは、ツアー前半に新潟県の地形地質や越後平野・山地・丘陵、信濃川の特徴など資料を用いて説明。

㊤ツアー中の様子　㊦案内人を務める平野副社長

基本的な知識を学んだ上で角田岬遊歩道を散策し、海底火山のダイナミックな活動によって形成された海岸付近の地形について考察した。

ガイドを務めた平野副社長は「日本でここ新潟だけの地形・地質があり、歴史と絡めて考えると非常に興味深い。若者から高齢者まで幅広い年代に参加してもらいたい」と意気込む。

中山社長も「CSR活動の一環としての側面もある。ベテラン技術士の豊富な知識を活用し、地域貢献につなげたい」と展望を話した。

ツアーは新潟市エリア、燕・弥彦エリア、村上エリアの3プランを用意。50代以上のシニア層や知的文化層を主なターゲットとし、企業など団体による視察研修にも対応する。価格の目安は1人2万円から、ツアーは1人から最大15人での申し込みが可能。

問い合わせ先は、新潟運輸旅行事業部KIJトラベル（TEL025-285-5661）。

防犯カメラ設置費用の1／2補助

新発田市

新発田市は、自治会や私立認定こども園などを対象に、防犯カメラ設置に係る機器購入費・設置工事費、カメラ設置を示す看板の設置費などを補助する（保守・修理費、電気料金等維持管理費などは対象外）。補助率は対象経費の税込み価格参照で1／2以内（1000円未満切り捨て）、限度額は1台につき30万円とする。

2026年1月9日まで事前協議を受け付ける。協議内示後2月13日までに交付申請を行い、交付決定後3月13日までに事業着手および実績報告する。今回は第2次募集であるため、予算残額はわずかとなっている。

解体物件

※発注者（住所）＝①件名②工事場所③用途④施設規模⑤解体元請業者⑥工期

新発田市

■大和ハウスリアルティマネジメント（東京都千代田区神田三崎町3-3-21）＝①アメリカ屋新発田西店解体工事②新発田市富塚町1-16-9③店舗④平屋建て、床面積802・6㎡⑤天伸産業（新潟市西蒲区打越丙）⑥9月1日～11月12日

上越市

■日本曹達生産本部二本木工場（上越市中郷区藤沢950）＝①旧保全作業所建屋解体撤去工事②上越市中郷区藤沢950③プラント④平屋建て、床面積205・72㎡⑤日曹建設（上越市中郷区藤沢）⑥7月1日～7月30日

日々の栞

ナラティブな情報にご用心

▼昔話には本来の姿がある。ある席で児童文学研究者と隣り合わせた折に、そんな話を聞いた。怖がりの息子のことを打ち明けたところ、「本来の3匹の子ブタを読み聞かせしてあげて」と助言されたのだ。イギリスに伝わる昔話では、オオカミは最後に鍋で煮られ食べられてしまう。ところが近年の絵本では、オオカミは家に入れず悔しがって立ち去るだけで幕が閉じるものも多いという。オオカミがまだ生きていることで、昔話と現実の境界線が曖昧なままの子ども時代には、オオカミの存在におびえ暗闇やひとりになることを怖がるのだそうだ▼物語を都合よく書き換えることは、実は本当に恐ろしいことで、戦時中の大本営発表はその典型とも言える。国民に勇気を与えるために連戦連勝の物語が語られたが現実との落差は激しく、甚大な犠牲を生んだ▼現代もなんとなく同じ構図が繰り返されている。SNSでは共感できる話が脚色されて拡散されやすい。外国人に関する真偽の怪しい情報も飛び交っている。ナラティブな情報は人を動かす力を持つが、それ故に危険さもはらむ▼特定の国や人々に対して「危ない」「信用できない」といったストーリーが広まると、根拠は不明な中、ヘイトや偏見が増幅されてしまう。少子高齢化で人口減少が進み、外国人材の必要性が叫ばれている中、それでいいのだろうか▼物語の力、ナラティブに語られる情報の力。力を持つものへの希望とリスクのことを考えつつ、ある日息子に3匹の子ブタを読み聞かせてみた。だが、彼は途中で眠ってしまった。彼のオオカミはまだ、食べられていない。

（群馬・MT）

新潟支局よりお知らせ

新聞に使用した記事（入札情報除く）をホームページやブログなどに利用される方は「**新潟建設新聞 提供**」と入れていただければ自由に使っていただいて結構です。ご使用の際の連絡はメールで。

niigata@ns.nikoukei.co.jp